外材製品輸入の現状と見通し

林産振興課　木材需給係長　猪　飼　秀　一

今回は，マクロな経済の立場から，最近の情報等を提供し，企業経営の参考にしていただければという観点から解説いたします。

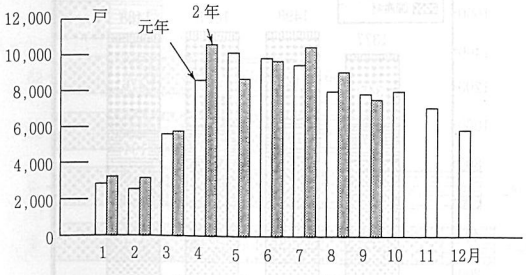
1．木材産業を取り巻く経済情勢について

(1)　景気の動向

木材産業と密接な関係にある住宅建設では，3年続きの8万戸を超える高い水準を受け，今年度も夏までは，前年を上回る勢いで推移しています(**図1**)。

個人消費も，乗用車は下がりぎみとはいえ，大型店販売が順調で，全体的に堅調さが続いています(**図2**)。

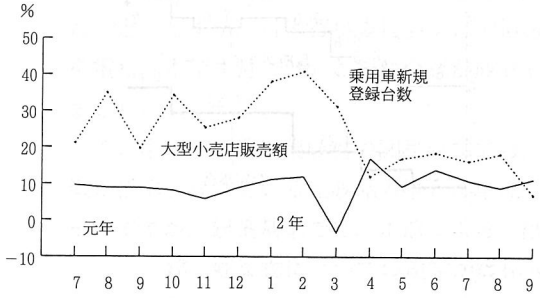
このように，現時点における本道の景気は，総体としては好調ですが，イラクのクウェート侵攻による，原油価格上昇の影響がもたらすインフレが懸念され，住宅着工も住宅金融公庫の金利が，5.5%にまで上昇したため，秋以降減少ぎみになることが予想されます。



新設住宅着工戸数の推移

(注) 建設省調べ。

図1　住　宅　建　設



大型小売店販売額・乗用車新規登録台数前年同月比の推移

(注) 北海道通商産業局、日本自動車販売協会連合会、および全国軽自動車協会連合会調べ。

図2　個　人　消　費

(2)　金利の動向

湾岸危機によるインフレ懸念を抑制するため，金利は高水準となっており，企業経営に圧迫感を与えることが心配されております。

公定歩合も，一年前の長期プライムレートと同じ6%となっており，上昇の足の速さが，うかがわれます。ただし，本年11月以降，長期プライムレートも下がり気味な動きを見せています(**図3**)。

(3)　円の動向

円の動きを，**図4**でみますと，短かい期間に大きな変化をみせています。このグラフは4半期（3か月）ごとの平均をとったもので，平成元年の始めには120円台だったものが，円安を続け，平成2年の前半には，160円に迫るほどとなりました。ところが，9月以降反騰を示し，10月末では，130円前後で推移しています。

昭和61年以前からみると，総じて円高基調でありますが，昭和62年以降，大枠120円から160円の間で動いています。ただし，円は，激動する国際経済の中で，世界の情勢に敏感に反応しますので，今後とも予想の難かしい動きをするものと思われます。

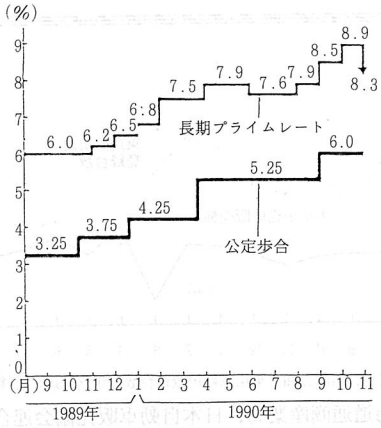
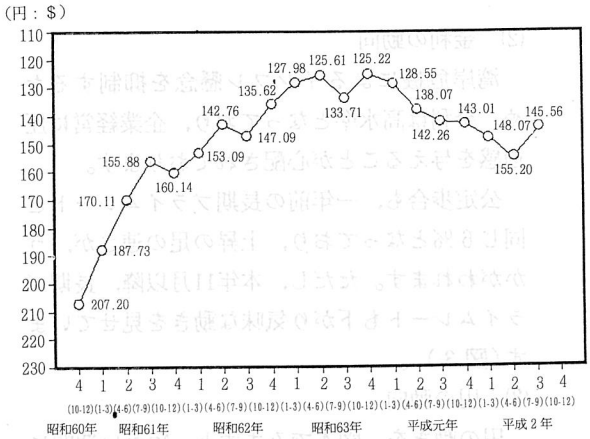


図3　公定歩合と長期プライムレートの推移



平成2年の推移（月末）

月	3	4	5	6	7	8	9	10
円：$	159.00	160.30	152.60	153.90	148.70	145.45	137.95	129.35

図4　東京外国為替相場推移（四半期）

2．本道の木材需給について

(1)　本道の木材需給

図5と図6で，本道の木材需給の推移をみますと，需要，供給の総量はともに約1,500万m³程度となっています。

平成2年度には，住宅着工の減少が予想され，梱包材主体のカラマツの増加はあるものの製材用が470万m³に減少し，パルプ用は紙需要の増大が続いているため900万m³を上回り，需要総量では，ほぼ元年度並みと見通しています。また，供給は，道内の人工林が育成期であるとの資源事情を受け，国，道有林の減少により，道産材は800万m³を下回ることが予想され，その減少分を外材の供給に仰がなくてはならず，供給総量もほぼ，元年度に近いものになると見通しています。

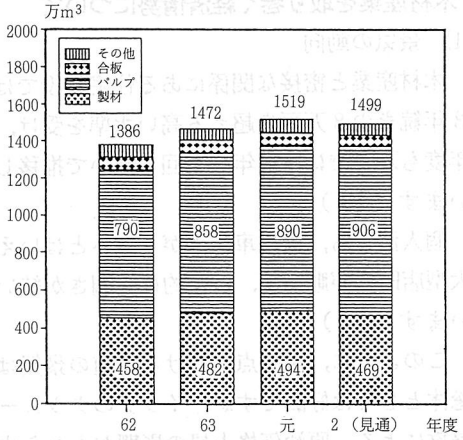


図5　木材需要量の推移（副材含む）

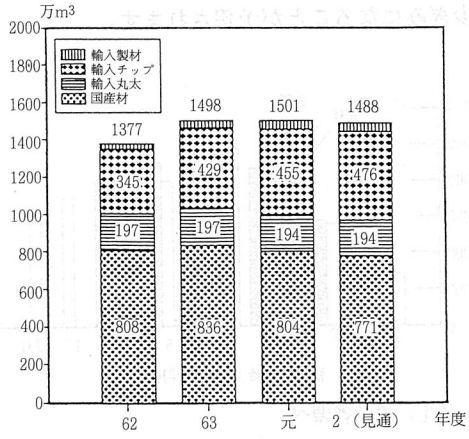


図6　木材需要量の推移（副材含む）

(2) 外材輸入の状況

外材輸入については，まず丸太は**図7**でみるように，ここ3年，195万m³前後で推移しています。これを，地域別内訳でみると，63年度までトップを占めていた北洋材が，元年度には米材にその地位を奪われています。これは北洋材が，山火事や台風など災害の影響も受けましたが，ソ連国内の経済事情の影響が大きいようで，2年度も同様な動きになるものと見通しています。

ところで，外材のなかでも，製材輸入は，**図8**でみるように，62年度以降大きな伸びを示しており，今や30万m³に迫まろうとする勢いです。

ちなみに，平成2年4月から9月の累計では，製材は前年同期比で約3割増と，増勢が続いており，丸太も約1割増と，外材輸入は，好調なものとなっています。

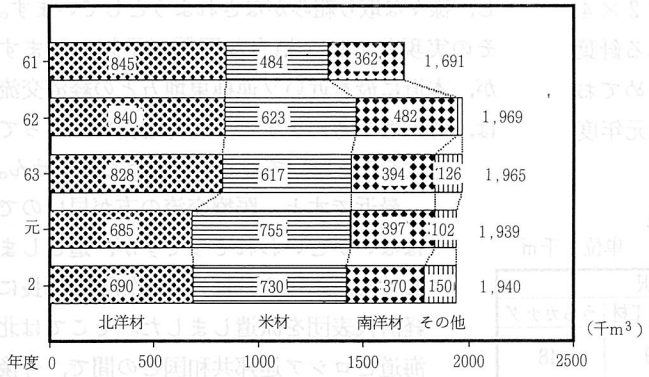


図7 外材輸入の状況（丸太）

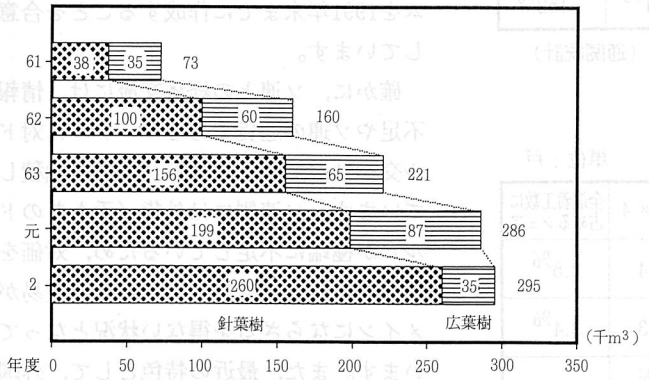


図8 外材輸入の状況（製材）

3. 貿易問題と海外の動向について

次に，貿易と海外の動向について，何点かにしぼって解説します。

(1) 日米貿易問題

① 昨年の5月以降，マスコミを賑わしてきた，アメリカのスーパー301条問題は，「日本の木製品には，技術的障壁があると認定したこと」ですが，日米貿易委員会などで協議を重ね，本年4月にはおおむね合意が成立しました。

この中で，構造用集成材の関税分類では，低い税率となっている完成品の輸入が増加しそうですが，建築基準では，木造による三階建て建築物についての規制が緩和されることなどにより，木材の需要拡大が図られるものもあります。また，関税水準は，ウルグァイ・ラウンドに先送りとなっており，大騒ぎした割には，静かな幕引きとなりました。

② アメリカでは近年，ワシントン，オレゴン州の天然林を中心に生息するマダラフクロウという珍しいフクロウが，絶滅のおそれがあるため，生息環境を保護すべきだとの環境グループからの訴えと，丸太の輸出により，国内への丸太供給が不足しているとの地元製材工場の訴えがマッチしたことを受け，本年8月，国有林・州有林からの丸太輸出規制を強化する法案が成立し，発効しました。この規制を我が国への丸太輸出に当てはめると，米国産丸太輸入量の15～20%に影響があると推定されます。しかし，規制実施時期の関係や，民有材丸太とか他産地丸太への転換が行われる可能性があること

から，直ちに木材需給に影響を与えるものではなく，早くても91年後半以降の影響を考慮しなくてはならないだろうと言われています。

(2) ガット・ウルグァイ・ラウンド

次は，スーパー301条問題でも先送りされたガット（関税と貿易に関する一般協定）のウルグァイ・ラウンドです。マスコミの報道では，コメの自由化問題に関心が集中しがちでありますが，補助金や関税も，大きなテーマになっています。

このうち，関税では，製材品を中心に，現行8～10%の税率を引き下げる方向で交渉が行われています。たとえば，丸太やチップ等では関税がゼロですが，本道のエゾ・トド製材と競合するSPF加工材は，現在8%の関税がかかっています。SPF加工材は，かんながけをした松・もみ・とうひ属のことで，主として2×4住宅に利用されており，本道へ輸入される針葉樹製材のなかでも，大きなウェートを占めております（**表1**）。本道の2×4住宅は，元年度の新設は約3千戸で，住宅着工戸数全体の3%程度にすぎませんが，伸び率をみると，35%増となっています（**表2**）。熟練した大工さんが不足しがちななか，組み立て方法が容易な2×4住宅は，在来工法の住宅の伸びを上回る増加が予想されます。

このSPF加工材の関税引下げは，価格面での競争力を一層強めることとなります。ただし，関税引下げも，円の動向により，円安では緩和に，円高では加速する方向に働きますので，単純には考えられないにしても，同ラウンドの展開を，楽観的に見ているわけにはいきません。

(3) ソ連との関係

今，世界の目が注がれているソ連は，ゴルバチョフ大統領の下，ペレストロイカ（改革）を進めており，市場メカニズムの働く経済をめざし，様々な取り組みがなされようとしています。その実現化には，相当な困難が予想されますが，本道に最も近いソ連極東地方との経済交流は，将来性を考えますと，北海道側でも黙って手をこまねいているわけには参りません。

最近ですと，医療交流の方が早いのではないかといわれそうですが，道としましても，本年6月には横路知事を団長に経済代表団を派遣しました。そこでは北海道とロシア連邦共和国との間で，今後の経済交流を推進するため，双方にワーキンググループを作り経済協力プログラムを1991年末までに作成することを合意しています。

確かに，ソ連との経済交流には，情報不足やソ連の通貨であるルーブルに対ドル交換性が無いことなど，問題が山積しています。ソ連側には外貨（手もちのドル）が極端に不足しているため，対価を魚や木材などで支払う，バーター貿易がメインにならざるを得ない状況となっています。また，最近の特色として，外国資本をソ連国内に受け入れ，合弁企業を

表1　本道への製材輸入の状況

単位：千㎥

年度	製材輸入	内訳			
		針葉樹	うちカナダ	SPF加工材	うちカナダ
63	221	157	125	49	48
元	286	199	160	74	73
元／63	129%	127%	128%	151%	152%

（通関統計）

表2　住宅着工の状況

単位：戸

年度	全国住宅	うち2×4	北海道	うち2×4	全道着工数に占めるシェア
63	1,662,616	42,064	86,105	2,164	2.5%
元	1,672,783	48,306	86,828	2,933	3.4%
元／63	101%	115%	101%	135%	—

作り，そこで作られる製品を輸出する方法があります。現にアメリカの企業も，極東地方に製材工場の合弁企業を作り，輸送コストを考え，日本に売り込むことを考え始めています。

ソ連の北洋材丸太は，パルプ材を主体に本道に輸入され，ソ連側にとっても貴重な外貨獲得手段になっており，直ちに無くなることはないにしても，ソ連側でも合弁企業化による製品輸出への志向が強まることが予想されます。

また，バーター取引でも，ソ連の食糧不足のため，本道産のバレイショや玉ネギを輸入し，対価は木材でということも想定されますので，ワーキンググループの林業・林産業分科会を中心に，企業や業界の皆様の意向をうかがいながら，推進を図るための検討がなされていくと思います。

4．おわりに

本道への木材輸入は，丸太が一定の水準で少しずつ減少していくのに対し，製材品は増加傾向にあります。この傾向は，世界の木材産地国側の事情でますます強まるわけですので，迎え撃つ本道林産業界としましては，個々の企業の技術力をワンランクアップし，より付加価値の高い製品を作り，製材品輸入に対応していかなくてはなりません。

そのためにも，林産試験場を，大いに活用していただき，技術力を高めたり，新製品の開発に努められますことを期待します。

社団法人 北海道林産技術普及協会では機関誌ウッディエイジ（Ｂ５版）の特集号を頒布していますのでご利用下さい。

価格はいずれも実費　（　）内は送料

・特　集　号

カラマツを使ってみませんか	（昭和56年）	25頁	400円	（175円）
Theおがこ	（昭和58年）	26頁	400円	（175円）
窓（木製サッシの実用例集つき）※	（昭和59年１月号）	35頁	700円	（250円）
木材工業とマイコン※	（昭和59年11月号）	17頁	340円	（175円）
木製軽量トラス※	（昭和59年12月号）	16頁	320円	（175円）
木の良さ再発見	（昭和60年１月号）	22頁	300円	（ 46円）
今なぜ広葉樹か※	（昭和60年３月号）	22頁	440円	（175円）
カラマツ・セメントボード※	（昭和60年10月号）	43頁	860円	（250円）
単板積層材※	（昭和60年11月号）	30頁	600円	（250円）
キノコ（その１）	（昭和61年３月号）	29頁	500円	（ 46円）
木材の農畜産業への利用※	（昭和61年５月号）	27頁	540円	（250円）
「木の家」百年持たせます※	（昭和61年９月号）	23頁	460円	（175円）
キノコ（その２）	（昭和61年11月号）	23頁	600円	（ 46円）
林産試験場の成果※	（昭和62年１月号）	43頁	860円	（250円）
林産試験場移転整備※	（昭和62年５月号）	25頁	500円	（175円）
日曜大工のすすめ※	（昭和62年６月号）	24頁	480円	（175円）
木造住宅の保守管理※	（昭和62年12月号）	23頁	460円	（175円）
木の良さ・木の香りを教室へ※	（昭和63年７月号）	33頁	660円	（250円）
木質飼料※	（昭和63年10月号）	17頁	340円	（175円）
第38回木材学会大会の概要※	（昭和63年11月号）	33頁	660円	（250円）
最近の木工機械と刃物	（昭和63年）	47頁	500円	（ 51円）
わかりやすい木材乾燥	（平成元年）	38頁	1,500円	（ 51円）
木造住宅の良さ	（平成元年２月号）	26頁	800円	（ 46円）
林産試験場の試験研究各部・科の紹介	（平成元年７月号）	26頁	600円	（ 46円）

註：品切れの場合はコピーになります。※印はコピー。